

第1回 AM(3Dプリンティング) テクノシンポジウムの御案内

日時 2026年11月10日(火) 13:00～16:50 (受付開始:12:30～)

場所 尼崎リサーチ・インキュベーションセンター(ARIC) 小ホール
〒660-0083 兵庫県尼崎市道意町7丁目1番3 Tel: 06-6415-2500

趣旨 京都イノベーション・リソース(KIR)は、メンバーの経験・知識・技術等に基づく人的ネットワークを活用し、多くの連携の場を提供することにより、産学公各界の皆様と新しい価値の創造を通じて社会へ貢献することを目指しています。2016年度より「CFRP」や「水素エネルギー」、「ロボット」について、最近の動向や技術開発状況を紹介するテクノシンポジウムを開催してきました。

2025年度は新たに「カーボンニュートラル関連」を取り上げ、学界での研究開発の動向と企業における脱炭素の取組状況を紹介しました。以上の経験を基に、今年度は近年採用例が増している『AM(積層造形)技術』をテーマに、第一線の講師により学界での研究開発や産業界における最近の取組状況を紹介し、本分野に関心をお持ちの企業の方々の技術力向上や実用化推進に貢献することを目的として開催します。

プログラム

時間	題目・内容	講師
13:00～13:05	開会挨拶	KIR 理事長 鴻野 雄一郎
13:05～14:05	基調講演: 「トポロジー最適化とAMの融合が拓く次世代ものづくり」	京都大学大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授 泉井 一浩 氏
	製造制約から設計者を解放するAM技術と、物理的設計要件から最適形状を導くトポロジー最適化は、相互に可能性を拡げる関係にあります。両者の融合による高付加価値設計の方法論と産業展開の可能性を論じます。	
14:05～14:55	業界講演: 「AM社会実装の現状(国内活用事例の共通点)」	一般社団法人 日本AM協会 専務理事 澤越 俊幸 氏
	日本でのAM社会実装は海外と比較すると遅れていると言われています。そのような現状と原因をお話した上で、国内活用事例の紹介と共通点を説明し、AM活用へのヒントをお話しします。	
14:55～15:05	休憩	
15:05～15:40	技術講演: 「AMPIにおける金属AMの取り組み」	一般財団法人 近畿高エネルギー加工技術研究所 研究開発部 部長 竹本 誠 氏
	AMPIにおけるこれまでの金属AM(Additive Manufacturing: 付加製造)に関する研究内容と、K Programでの導入機器を含めた造形・評価設備を活用した社会実装を目指した取り組み、K Program後の活動等を紹介しします。	
15:40～16:10	全体質疑・ディスカッション	司会 KIR 副理事長 土井 健志
16:10～16:20	閉会(見学会前)の挨拶 (AMPIへ移動)	
16:20～17:00	見学会 : AMPI様 (1)技術支援棟; 金属3Dプリンター、X線CT、3Dスキャナー (2)研究棟; 走査型電子顕微鏡(SEM)、引張試験機など の見学	
17:50～19:30	懇親会	がんこ尼崎店 (阪神電車 尼崎駅の北口より徒歩約7分) 住所: 尼崎市神田北通2-20 Tel: 06-6412-3412

主催 特定非営利活動法人 京都イノベーション・リソース

後援 (一社)関西産業活性化協議会、(一財)近畿高エネルギー加工技術研究所

募集定員 50名程度(先着順)

参加費 講演会 3,000円(予稿集を含む) 懇親会 4,000円

申込み 御勤務先、御名前、連絡先等を記入し、メールでお申込下さい。
但し、同業者の方につきましては、参加をお断りする場合がありますので御了承をお願い致します。
申込書は、KIR のホームページ(<http://kir.or.jp/>) からダウンロード願います。
申込み締切りは、10月31日(土) (宛先: 申込書に記載しています)

会場へのアクセス： 下記の地図をご参考下さい。

JR、阪神電車が利用できます。



阪神電車 尼崎センタープール前駅、又は出屋敷駅から会場までのご案内（徒歩8分）

最寄りの駅からのアクセス



最寄り駅：阪神電車『尼崎センタープール前駅』『出屋敷駅』
どちらの駅からおおよそ徒歩8分で到着します。
地図と下記写真をご参照ください。

京都イノベーション・リソースとは；

京都大学機械系教室(京機会)卒業生の有志が集まり、大学や企業などが保有するシーズとニーズのマッチングや連携の活動を通じて、新しい価値の創造と企業のオープンイノベーションや事業の発展を支援することを目的として、2011年に設立したNPO法人です。

活動範囲の拡大と共に機械系以外の分野も拡充し、多数の人材が集い、現在では京機会以外のメンバーは、実活動メンバーの約3割となり、国内外の大学や企業との協働・協創を目指しています。

詳細はホームページ； <http://kir.or.jp> をご一読下さい。